

「制度いらない」 有志ら抗議活動

県内初の裁判员裁判の選任手続きが青森地裁で行われた1日、裁判员制度の廃止を求める有志らが、同地裁前で抗議活動を行った。

活動は、東京都の「裁判员制度はいらない！大運動」事務局の呼び掛けによるもの。これ

まで東京、埼玉で行われた裁判员裁判でも、制度への反対を訴えてきた。

この日は、県内外から市民団体関係者や弁護士ら約10人が参加。参加者は旗や横断幕を掲げ、「たった3日間の審理で刑を下しているのか」「国民は判決について、一生悩み続けねばならないのか」

と大きな声で訴えた。

運動に参加した弘前市の小田切達弁護士は、性犯罪が含まれる今回の裁判について「被害者保護はもちろんだが、それがあまりにも被害者寄りになってしまうと被告の負担が増す恐れがある」と懸念を示した。同運動は2日も行われる。



青森地裁前で裁判员制度の廃止を訴える参加者